

【1人1台端末の利活用に係る計画】

1、はじめに

我が国が目指すべき、未来社会の姿として、仮想空間と現実空間を融合させ、経済発展と社会的問題の解決を両立する社会が提唱された。私たちの生活において、様々な機械がコンピューターで制御され、コンピューターなしでは日常生活を送ることが難しい。

また、人工知能の一般利用が進み、今後、社会が若者に求める能力は大きく変わっていくと考えられる。平成28年の総務省の調査研究によると、将来的に人工知能が広く一般化する社会においては、情報収集能力や課題解決能力、倫理的思考などの業務遂行能力が最も重視されるだろうという結果が出た。このような社会背景から、全国の児童・生徒1人に1台のコンピューターと高速ネットワークを整備するGIGAスクール構想が発表され、令和元年より全国の小中学校で整備が進められていった。

さらに、中央教育審議会の令和3年の答申『令和の日本型学校教育の構築を目指して』においては、全ての子供たちの可能性を引き出すために、個別最適な学びと協働的な学びの実現が協調されている。この答申では、教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を行うことが重要とされている。

そこで本町では導入当初、中学校ではアプリをどのように活用したらよいか、生徒と教員どちらも手探りの状態であったため、令和4年度『生徒・教員のICT活用能力を高める情報能力』をテーマに、ICTの活用を通して、学習や学校生活の向上を図る研究に取り込んだ。また、さらなる教育活動の充実のために、教員のICT活用スキルの向上が第一であると考えて研修会の充実も図った。教務主任と情報担当が中心となって研修計画を立て、校内研修、外部講師による研修会を開催し、またGoogle Classroomやデジタルノートの活用やインライン配線機器を活用した教育活動の充実などを図るとともに生徒の情報リテラシーの向上を図る情報モラル教室の充実を図った。

2、GIGA第1期の総括

本町では令和2年度にWi-Fiネットワーク環境の設備や電子黒板、デジタル教科書、生徒1人1台端末(iPad)を導入した。これらは主に、インターネットを使った調べ学習やドリル教材の活用を中心に利用が始まった。さらなるICTの活用を目指して、令和3年度にGoogle for Educationの導入とオンライン配信機材の整備が行われ、学習や学校活動など様々な場面において活用されている。

3、1人1台端末の利活用方策

本町の目指す姿を達成するための方向性としては、以下の点を重視する。

個別最適な学びの実現 : 児童生徒が自分のペースで学び、理解度に応じた課題に取り組むことができるクラウド環境(Google Classroom等)の活用を促進する。

協働的な学びの促進 : 教員と児童生徒、児童生徒同士がやりとりする場面でICTを積極

的に活用し、協働的な学びを推進する。

教育の質と多様性の向上：児童生徒が自ら考え、課題を発見・解決する力を育成するために、目的や場面に合わせて ICT を使い分けできるよう教育の質を高め、多様な学びの機会を提供する。

包摂性の確保

：不登校や特別支援など、様々な点で学習に困難さを抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で ICT を活用していく。

：児童生徒が公平に学びの機会を享受できるよう、端末の家庭への持ち帰りを日常化し、デジタルドリル等を利用し、家庭学習で活用する。